



Archdiocese of Santa Fe

Archdiocese of Seattle

Archdiocese of Nagasaki

Diocese of Hiroshima

サンタフェ大司教区

シアトル大司教区

長崎大司教区

広島教区

核兵器不拡散条約（NPT）

第 11 回再検討会議の開催にあたっての声明

2026 年 4 月 27 日

私たちは、サンタフェ、シアトル、長崎の大司教、ならびに広島司教です。3 年前、長崎への原爆投下から 78 年にあたり、私たちカトリックの指導者は、核軍縮に取り組むため、「核兵器のない世界のためのパートナーシップ」を正式に設立しました。

私たちの 4 つの教区は、核兵器の発祥の地、米国内で最も多くの核兵器が配備されている地域、そして今日に至るまで、世界で唯一、原子爆弾による被害を受けた二つの都市を代表しています。

私たちは、核兵器を保有することそのものが非道徳的であると宣言された故フランシスコ教皇の歩みに従っています。そして今日、私たちはレオ教皇の導きにも支えられています。

教皇は、2026 年の「世界平和の日」メッセージにおいて、次のように述べておられます。

「軍事力、とりわけ核抑止力に依存する抑止という考え方は、国家間の関係が非合理性に基づいているという前提に立っています。それは、法、正義、信頼の上に築かれているのではなく、恐怖と力による支配の上に築かれているのです。」

この言葉において、教皇は問題の核心を示しておられると、私たちは受け止めています。

1970 年に発効した核兵器不拡散条約（NPT）は、56 年間にわたり、核不拡散の礎として重要な役割を果たしてきました。しかし、この条約は今や大きく傷つき、崩壊の危機にさえ瀕していると言わざるを得ません。その主な理由は、核兵器保有国が、NPT 第 6 条においてはるか以前に約束した、核軍縮につながる真剣な交渉に入ることを、長年にわたり拒み続けていることにあります。

この失敗を説明するためにいつも用いられるのが、「核抑止」という言葉です。すなわち、核兵器を保有することによって、他国が核兵器を使用することを阻止するという考え方です。

しかし、これは、自国が非人道的で大量虐殺をもたらす兵器を保有していることへの非難をそらすための口実でもあります。なぜロシアと米国は、抑止力のためなら最小限の数百発で十分であることを認

めず、核戦争を遂行するために数千発もの核弾頭を維持してきたのでしょうか。私たちは、このことを問わなければなりません。また、なぜ核保有 9 か国すべてが、核兵器を永久に維持するため、いわゆる「近代化」計画に莫大な資金を投じているのかも問わなければなりません。

レオ教皇は、法と正義と平和に基づく世界を築くよう、私たちに呼びかけておられます。その世界を追い求めることは、神から与えられた私たちの務めです。

米国憲法は、国際条約を「国の最高法規」として定めています。NPT の本質的な合意は、核兵器保有国が核軍縮のための交渉を行うと約束し、その代わりに、他のすべての国々が核兵器を決して取得しないと約束する、というものでした。しかし、核兵器保有国は、この法的合意における自らの義務を果たしていません。

NPT は、核兵器の拡散を、NPT 非署名国であるインド、パキスタン、イスラエルの 3 か国と、脱退国である北朝鮮にとどめるうえで、きわめて重要な役割を果たしてきました。しかし、過去 2 回の NPT 再検討会議は、核軍縮に向けた具体的な措置を示すことに完全に失敗しました。

これまでの会議が失敗してきたなかで、今回の会議がどのように成功し得るのか、私たちには見通すことができません。核の脅威が高まっていることは明らかです。「力こそ正義」という残酷な考え方が勢いを増し、軍備管理条約は失われつつあります。そして、核兵器を永続的に保持するための大規模な近代化計画によって、私たちは後退の道を歩んでいます。

私たちは、この核兵器不拡散条約再検討会議に参加される皆様のご尽力が実を結ぶことを、心より願っています。真に核軍縮へとつながる望ましい成果が得られることを、熱心に願い、祈っています。しかし、これまでの経緯が今後を示すものであるならば、そのような成果は期待しにくいかもしれません。

残念ながら、もし NPT 再検討会議が望ましい成果をもたらさないのであれば、私たちは、今年 11 月下旬に国連で開催される核兵器禁止条約（TPNW）第 1 回再検討会議に希望を託します。バチカンは、TPNW に最初に署名し、批准した国家です。私たちはそこに集い、この条約のさらなる実施を証しする一助となります。

平和と癒しのために、私たちが祈り続けていることを、どうか心に留めてください。

皆様の働きが、この苦しむ世界を、核兵器のない世界という約束の地へと導く助けとなりますように。

皆様のご尽力に深く感謝申し上げ、その働きが豊かな実りをもたらすよう、心よりお祈りいたします。

ポール・D・エティエンヌ

米国・シアトル大司教

アレキシオ白浜満

日本・広島司教

ジョン・C・ウェスター

米国・サンタフェ大司教

ペトロ中村倫明

日本・長崎大司教

ヨセフ高見三明

日本・長崎名誉大司教